

第2学年1組 保健体育科 学習指導案

期 日：令和元年11月22日（金）公開授業①

場 所：阿蘇市立一の宮小学校体育館

指導者：南小国町立南小国中学校 教諭 益田 誠悟

1 単元名 E 球技 「バレーボール」

2 単元について

(1) 単元観

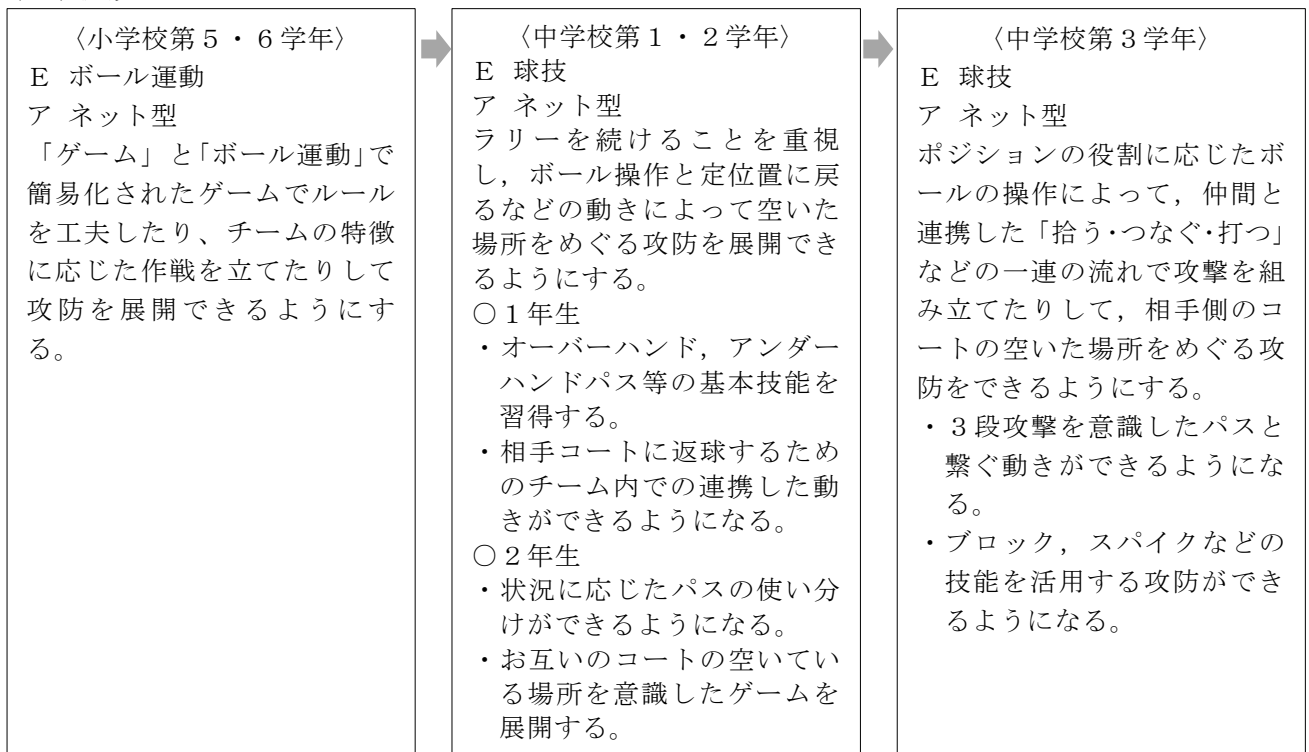
本単元は、中学校学習指導要領（体育分野）の内容E「球技」を受けて設定したものである。

バレーボールはネット型に属し、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、長くラリーが続いたり、レシーブやスパイクなどが成功したときに大きな喜びを感じる反面、単調な展開で勝敗が決したりすると、運動量が少なくなり、バレーボールの面白さを感じられず、意欲が低下してしまう側面もある。

本単元では、小学校の「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させ、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できるようにすることが求められる。

したがって、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボール操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。その際、攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。また、学習に積極的に取り組み、作戦などについての話し合いに参加することや一人一人の違いに応じたプレイを認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るようにすることが大切である。

(2) 系統観



(3) 生徒観

本学級の生徒は男子16名、女子11名の計27名である。

保健体育の授業については、技能の高まりや仲間との関わりを楽しんでいる生徒が多い。技能の習得につまずきを感じている生徒、仲間とのコミュニケーションがうまくとれない生徒への手立てを工夫することで、自己肯定感や自己有用感を味わえる場を設定していきたい。

バレーボールの学習は、1年時にミニバレーボール形式で「ラリーを続けること」に主眼を置いた学習を経験している。男女ともにバレーボールに対する関心は高く、「チームで協力してボールをつなぐこと」、「仲間同士で声をかけ合って活動すること」に楽しさを感じている生徒が多い。また、バレーボール部に所属している生徒は2名おり、小学校の部活動で経験している生徒も数名いる。

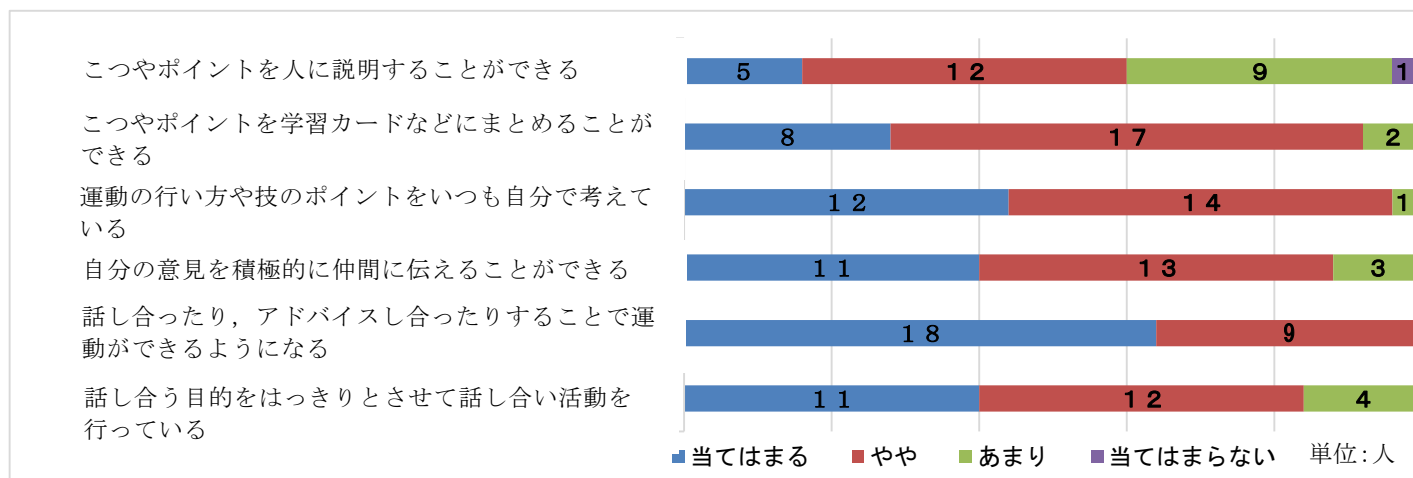
授業前の技能及び対話的な活動に関する実態調査の結果は以下の通りである。

【技能の実態調査の結果】

スキルテスト項目	A	B	C
① オーバーパスは、ボールを額の位置で捉え、パスを送ることができる。	6	17	4
② アンダーパスは、ボールを体の正面で捉え、手を振らずにパスを送ることができる。	4	13	10
③ アンダーサーブで、相手コートのアタックラインより後方へ打つことができる。	8	11	8
④ パスでは、仲間に聞こえるような声で名前を呼んだり声を掛けたりすることができる。	6	11	10

単位：人

【対話的な活動に関する実態調査の結果】



技能面の実態調査を見ると、ボールを繋ぎ相手コートに返すことが難しい生徒が14名みられる。特にアンダーハンドパスを苦手としている生徒が10名と多い。そのため、技能のポイントを意識させながら、ボールタッチの機会を増やしていく指導が必要である。

また、ボールの動きを予測したり、意図を持ってボールをコントロールしたり、空いているスペースに移動したりできる生徒も少ないため、チームとしての連携を意識しながらボールをつなぐ経験を積ませたい。

対話的な活動の実態調査を見ると、対話的な活動を行うことに関して多くの生徒が肯定的に捉えており、仲間と学習を進めることのよさを実感していると言える。しかし、「こつやポイントを人に説明することができる」という質問では、10人の生徒が肯定的に捉えていない。このことから、これまでの授業では会話の基盤となる情報が少なく、確実な知識の定着に至っていないことが分かる。また、基盤となる情報があっても会話の内容が拡散し、方向性が見えてこない話し合いに陥ることが多いため、「何について意見を出し合うのか」、視点を明確にし、話し合う内容が焦点化されるような手立てが必要であると考えられる。

(4) 指導観

阿蘇郡市中学校体育研究会 研究主題

「自ら運動の喜びや楽しさを求め、

生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ保健・体育学習の在り方」

～学び合いの中で知識を深め、技能を高める学習をめざして～

仮説：基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図り、「効果的な学び合い」を工夫することで、運動に親しむ資質・能力が育成されるであろう。

①指導にあたっては、阿蘇郡市中学校体育研究会の研究主題を受け、以下のことに留意する。

視点Ⅰ 学び合う活動による思考の再構築化

- めあての意識化を工夫するとともに、「どんなことに気付いたのか」、「何ができそうか」、「何ができるようになったのか」など、話し合いの視点を具体的に提示する。
- 話し合いを円滑に進めるためにホワイトボード（まなボード）を活用し、情報の整理・修正ができるようにする。
- 話し合うべきチームの課題が的確であるか、観察の視点に沿っているか、常に形成的評価を行い、機をとらえて修正を図る手立てを講じる。

視点Ⅱ 確かな実態把握による学習過程の構築

- 単元の初めに確実な実態調査（レディネステスト）を行うことで、単元のゴールの設定、一単位時間及び単元を通して身に付けさせたい力を明確にし、逆向き設計による学習過程を構造する。
- 生徒の実態をもとに、単元の前半では、知識及び技能の定着を図る時間を多く設け、後半から課題意識を持って取り組むタスクゲームを取り入れる。
- ボールタッチの回数を増やす場づくりの工夫を行い、基本的な技能の定着を図る。

②人権教育の視点について

- チームでの活動を通して技能のポイントや個々の課題をお互いにアドバイスし合ったり、練習やゲームでの役割を分担したりして、協力してよりよく活動ができる場の設定を行う。
- 仲間や相手の違いを受け入れる姿勢を大切に、励まし合ったり、称賛し合ったりできる支持的風土を育む。

3 単元の目標

- (1) ボール操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができるようにする。(技能)
- (2) バレーボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (3) バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

4 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ○学習に積極的に取り組もうとしている。 ○フェアなプレイを守ろうとしている。 ○作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ○仲間の学習を援助しようとしている。 ○健康、安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ○自己やチームの課題を見付け、ゲームなどで自己の考えたことを他者に伝えようとしている。 ○仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○空いた場所をめぐる攻防を展開するためのボール操作と、定位置に戻るなどの特性に応じた基本的な技能や、仲間と連携した動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ○試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

5 学習活動における評価基準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
①バレーボールに積極的に取り組もうとしている。 ②フェアなプレイを守り、ルールやマナーを大切にしようとしている。 ③チームの話し合いに参加しようとしている。 ④仲間の学習を援助しようとしている。	①ボール操作やボールを持たないときの動きのポイントを見付けている。 ②自己やチームの課題を見付け、考えたことを他者に伝えている。	①味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。 ②相手の攻撃に備えた準備姿勢をとり、ボールを捉えることができる。 ③基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。 ④空いているスペースへボールを送ることができる。	①バレーボールの特性や技術の名称、その行い方について具体例を言ったり書いたりしている。 ②簡易的な試合におけるルールについて言ったり書いたりしている。

6 単元の指導計画及び評価計画（11時間取扱い：本時9／11時）

時	学習活動	関心 意欲 態度	思考 判断	技能	知識 理解
1	○オリエンテーション ○実態把握のためのスキルテスト	① 観察			
2	○オーバーハンドパスからの連携 ○ボールを持たないときの動きの確認				① 観察 カード
3	○スリーアップ運動 ○学習めあての確認（本時の到達目標の確認）			① 観察 カード	
4			① 観察 カード		
5		④ 観察			
6				② 観察	
7	○投げ上げトスによるスパイク・プッシュ練習 ○これまで学習した技能(オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、プッシュ)に挑戦するタスクゲーム			④ 観察	
8	○ゲーム① 課題(個人課題、チームの課題)を把握し、解決策を練るゲーム ○ゲーム② ゲーム①の話し合いを生かし、課題解決を図るゲーム	③ 観察 カード		③ 観察 カード	
9 本時			② 観察 カード		
10				③ 観察 カード	
11	○まとめのゲーム	② 観察			② 観察 カード

7 本時の学習（本時9／11）

(1) 目標

○ラリーを続けるために、ボールを持たないときの動きについてチームで意見を出し合うことができる。

【思考・判断】

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○教師の発問・指示 ●生徒の反応	指導上の留意点・評価	備考	
導入	5	1 挨拶・健康観察を行う。 2 本時の授業の流れを確認する。 3 めあてを確認する。		・到達目標のイメージを共有するため、運動の中で重要な技能のポイントをスクリーンで示し、生徒が意識してプレーしやすいようにする。	・プロジェクトリーダー	
		めあて：ラリーを続けるために、ボールを持っていないときの動きについてアドバイスしよう				
展開	10	4 スリーアップ運動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">①補助運動 ②オーバーハンドパス&キャッチ ・3本目のパスを相手コートへ返す ・パスをした後にコーンを折り返す ③サーブレシーブ&キャッチ ・直上コントロール後、キャッチ ④スパイク&プッシュ ・スパイク&プッシュ ・レシーブ&キャッチ ・手投げのトス</div>	○ボールに触れる位置はどこだった？ ●ボールの正面 ●おでこの前 ○レシーブはボールの正面に入ることを大事にしよう。 ○キャッチ後はすぐにパスしよう。	・バレーボールで特にけがが起りやすい部分を中心に行っていることを意識させ、丁寧に行うよう指導する。 ・おでこの前で三角形を作ってボールを捉えることを意識させるため、適宜声をかける。 ・パスは各自の技能に応じて挑戦させる。 ・レシーブは、ボールを追いかけてボールの正面に入ることをポイントとして指導する。 ・サーブはアタックラインより後方からアンダーハンドで行い、自分の技能に合わせて距離を調整させる。 ・両手を振り上げた準備姿勢が強いスパイク、プッシュの成功につながることを押さえる。	・ボール ・音楽 ・コーン ・コーン ・ホワイトボード	
	12	5 ゲームを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(1) ゲーム1</div> ・1チーム5人の6チーム編成 ・3チーム対3チームの対抗戦 ・パスの後にコーンを折り返す ・試合、作戦会議、観察・審判の役割をローテーションする	○コーンを折り返すときは、コートを見ながら素早く折り返そう。 ○ボールを持っていない時にどんなことを意識する？ ●名前を呼ぶ ●体を向ける ●近づく ○自陣にボールがないときにできることはどんなことだろう？ ●構える ●ポジションを確認する ●声をかけながら空いているスペースを確認する	・ゲーム1は1点マッチで行う。(失点したチームが交代し、得点したチームは連続2試合で交代する。) ・相手の返球に対して自分の体の正面で捉えること、ボールを持っていない時の動き、関わり方が重要であることを再度押さえる。 ・10点に到達したら、それまでのゲームをもとに作戦会議を行う。 ・話し合う内容が拡散しないよう、「話し合う視点」をもとに話し合うように助言する。 ・ゲーム2は3点ずつで交代するチーム対抗戦形式で行う。 ・ラリーを続けるためには、自陣にボールがないときの準備や声掛けも重要であることを押さえる。 ・他チームの試合を見て自分のチームと比較したり、応援やアドバイスをしたりすることが学習の深まりにつながることを押さえる。		
	18	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(2) ゲーム2</div> ・作戦会議をもとにゲームを進める <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">言語活動設定の意図 グループ学習を通して、チームや個人の課題に対し提示された視点をもとに話し合い、課題の改善を図る。</div>				・学ボード
	【評価】思考・判断 〈評価方法：観察、学習カード〉 ラリーを続けるために、ボールを持たないときの動きについて話し合う視点をもとに意見を出し合うことができる。					
まとめ	5	6 本時の学習を振り返る。 7 本時のまとめをする。		・自己評価によって学習を通して何が分かったか、何ができるようになったか振り返る。 ・本時の学習をまとめる。	・学習カード	

